



# けんせつ小町 「憧れ」を担う

女子小中学生限定!  
けんせつ小町活躍現場  
見学会を開催

日建連は今回の現場見学会を「Girls SITE」と題し、国土交通省後援のもと、夏休み特別企画として開催した。会場は関東圏を中心に大阪、福岡において会員企業が展開する一三カ所の土木・建築現場。参加者は原則として女子小中学生に限定、全体で三二名もの女子とその保護者が現場に足を運んだ。「なでしこ工事チーム」を中心に女性が活躍する建設現場において、各社のけんせつ小町たちが工夫を凝らしながら現場を案内。見学会場はどこも盛況で、テレビ、新聞でも大きく取り上げられた。十月二十四日には、北九州市での開催が予定されている。



# けんせつ小町と 三七二名の参加者たち

職業選択の自由は、数多くの選択肢があつてこそ享受できる権利だ。そのひとつに「建設」という素晴らしい職業があることを知ってほしい。そして、「けんせつ小町」と呼ばれる女性たちがすでに現場の先頭に立っている姿を見てほしい。そんな強い思いから女子限定の見学会は始まった。

## 女性でも「建設」を 職業選択の一つに

日建連は今年四月、「けんせつ小町委員会」を発足し、女性技術者、技能者の活躍を力強く後押しする体制を整えた。則久芳行委員長は冒頭の挨拶で「女性が『普通』に働くことのできる建設業界を目指す」と、そのコンセプトを語った。昨年度から建設業における女性活躍推進に取り組んできた日建連は、女性が働きやすい現場への環境整備、処遇改善をさらに加速

させた。「なでしこ工事チーム」の登録制度も定着。今では各現場で働くけんせつ小町たちがチームを組んで、様々な提言や活動を展開している。

日建連はこれまでも一般市民や学生をはじめ、幅広い層を対象に、土木・建築に対する理解を深めてもらうため、数多くの見学会を開催してきた。その参加者は昨年二五五万人に達した。今回の女子限定現場見学会は、従来の開催趣旨に加え、女性が活き活きと働く建設業界の「いま」を、同性である小中学生の女の子に伝えたいという発想から企画された。

その背景には「建設現場は男の世界」という固定観念を払拭し、実際の現場において女性が「普通」に働く姿を見てもらいたい、という業界全体の強い思いがある。将来、進路や職業を選択する岐路に立った時、「建設」という選択肢があることを知ってほしい。参加者のなかから、一人でも多く、将来の「けんせつ小町」が生まれることを願いながら、暑い暑い見学会が始まった。



【8月26日】  
MJR六本松新築工事  
(西松建設)



【8月7日】  
杏林大学井の頭キャンパス  
新築工事  
(竹中工務店)



【7月31日】  
六本木三丁目東地区  
再開発事業  
(大成建設)



【8月27日】  
江東ポンプ所江東系  
沈砂池棟建設工事  
(清水建設)



【8月19日】  
大師線立体交差事業・  
第1期 第3工区  
(鹿島建設)



【8月4日】  
(仮称)大阪市中央区淡路町  
3丁目PRJ新築工事  
(大林組)



【8月28日】  
阪神高速大和川線  
シールド工事  
(鹿島建設)



【8月20日】  
357号東京港トンネル  
(その2)工事  
(大林組)



【8月4日】  
東京外環自動車道  
田尻工事  
(大成建設)



【8月28日】  
野村不動産プラウドシティ  
志木本町  
(長谷工コーポレーション)



【8月20日】  
(仮称)大塚陽子線  
クリニック新築工事  
(戸田建設)



【8月6日】  
大正製薬大宮新物流  
倉庫建設工事  
(戸田建設)



【7月24日】  
(仮称)芝浦工業大学附属  
豊洲中学高等学校建設工事  
(三井住友建設)





高所作業車を体験し、高さやスピードにはしゃぐ参加者たち。

七月二十四日、東京・豊洲。第一回目の見学会は芝浦工大附属の中学校校舎の新築現場だ。朝から気温三〇度を超える夏日にも関わらず、約三〇名の小中学生とその保護者が集まった。会議室で工事概要を聞いた後、熱中飴とペットボトルを手にいざ現場へ。

まず二〇〇メートルの説明を受ける。「チームTOYOJO」(三井住友建設JV)のけんせつ小町から「乗用車一五〇台を持ち上げる」ことができるんだよ」と聞かされ、クレーンを見上げる顔は、口の形がみんな「O」になった。足場の昇降階段を伝って上層階へ。鉄骨とコンクリートがむきだしになっている建設中の建物を興味深く見回している。



CADオペレーターの体験も行った。始めはぎこちなく操作していたが、徐々に慣れた手つきで図面を引いていた。

初めての「現場」忘れられない体験

## 小学生

けんせつ小町を

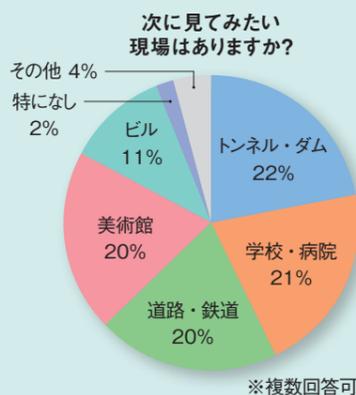
# 知る



をを使って鉄筋を縛ろうとするが、なかなか上手くいかない。職人さんが「手首のスナップをきかせるのがコツ」と手本を見せると感嘆の声が上がった

揚重のブースでは七五キロのコンクリートパネルを乗せたパレットトラックに二人の小中学生女子が挑んでいた。「七五キロっていったら私たち二人分でしょ？一人でも軽々と運ぶことができるってすごい。でも真っ直ぐに動かすのは難しいね。」

会議室では神妙な面持ちだった子供たちの表情が、現場のエネルギーを体感するにつれどんどん輝きを増していった。



「六本木三丁目東地区再開発事業」の現場見学会に参加した小学6年生

母親に誘われて参加してみた。女の子が意外に多いことにびっくりした。暑かったりと大変なことも多いんだと思った。



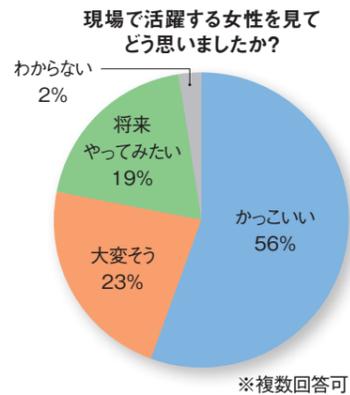
「(仮称)芝浦工業大学附属豊洲中学校建設工事」の現場見学会に参加した小学4年生

建設現場は怖いと思っていたけど、現場の仕事体験してみても、楽しいなどと思った。

# ななりだい

## けんせつ小町に

中学生



その他感想

- ・たくさんの人が役割を分担してスムーズに作業が進んでいてすごいと思った。女の人も活躍していたかっこよかった。
- ・女性がたくさんいてびっくりしました。暑い中の作業は大変そうでした。またこのような見学会があれば来たいです。

建設業と自身の将来をリアルに思い描く契機

七月三十一日、東京・北の丸公園の科学技術館に集まったのは一九名の小中学生とその保護者たち。第二回目の見学会は同館との共催となり、参加者の建設に対する関心度も高い。日建連が出席している「建設館」で建設の基礎知識に触れた後、バスで六本木の見学現場へ向かう。地上四〇階のオフィスビル、地上二七階のマンションなどを建設する工事現場だ。

早速、なでしこ工事チーム「ナナ六本木」(大成建設)のけんせつ小町七名が参加者を現場に誘導する。まずは仮設エレベーターで三〇階に上がる。国会議事堂を見下ろす大都会のロケーションに一同びっくり。柱や梁、床版だけのフロアに風が吹き抜けていく。

天井を縦横に張り巡らせたダクトや配線を物珍しそうに眺めている女の子たち。小町が「専門の職人さんが床や壁、天井をつくり、最後に内装を施すと、オフィスや店舗ビルが完成します」と説明する。

塗装業の父親と参加した中学生は「父の苦勞を毎日見ているので、建設業に進むなんてありえない。けれど、今回初めて大きな現場を見て、建設業は塗装業だけじゃないって。すごくたくさんの職種があるんですね」と話す。また大工に憧れているという別の女の子は「未来に残るものをつくるって誇らしい仕事。小町の皆さんと直接話ができて、自分の未来も現実的になってきました」と感想を語ってくれた。



どんな手順で工事が進められていくのか、説明を真剣に聞く参加者たち。

テレビのリフォーム番組を見て建設業に興味を持った。安全管理がしっかりしているのが気になる。



「杏林大学井の頭キャンパス新築工事」の現場見学会に参加した中学2年生

父の仕事柄、建設業は身近なものだったけど、ゼネコンの人と関わったのは初めて。色々な仕事の幅があると思った。



「杏林大学井の頭キャンパス新築工事」の現場見学会に参加した中学2年生

安全広場のテント内で行われた測量体験コーナー。参加者は真剣な眼差しでトランシットを覗いていた。



親の私達は異分野の職業なので、こういう機会がないと子供が「建設業」に接する機会はなかったと思います。子供が目指したいと言ったら応援したいですね。

「(仮称)大阪市中央区淡路町3丁目PRJ新築工事」の現場見学会に参加した中学生の保護者



娘がヘルメットをかぶっている姿は初めて見ました。なんだかたくましく見えます。設計の仕事に興味があるようなのですが、少しはその世界を具体的に考えられたみたいですね。

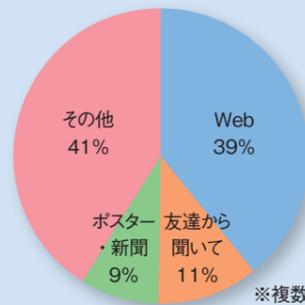
「六本木三丁目東地区再開発事業」の現場見学会に参加した小学生の保護者



仕事について父親の口から聞くより、同じ女性の職人さんから話を聞く方が心に入ります。有難い機会でしたね。

「杏林大学井の頭キャンパス新築工事」の現場見学会に参加した中学生の保護者

参加したきっかけを教えてください。



**保護者**

“未来の”けんせつ小町を

**見つめる**



**子供の夢を応援することが親の役割**

保護者の一人は「娘がすごく面白かったって。建設業にかなり興味を持ったみたいです。楽しむ娘の姿を撮り続けていたんですけど、途中から私の方が夢中になってしまった」と笑みを見せた。

愛娘が建設業界を目指したいと考えたとき、親としてどんな感慨を抱くものなのか。そう尋ねてみると「応援したい」という回答がほとんどだった。小学四年生の娘さんと参加したお父さんは「最近建設業界に女性が増えていくことは知っていました。娘が真剣に就業を目指すのであれば『頑張

れ」と背中を押してあげたいですね」と娘に目をやった。

危険な職場という印象をぬぐいきれなかったお母さんは「思っていた以上に安全に配慮されていて驚きました。でも、男性との体力差は圧倒的なのかな?」。以前参加したダム現場の見学会では女子トイレもなかったが、この現場を

見て、建設業＝男の世界というイメージも一変したという。

一方、別のお母さんは「女子限定の見学会、素敵ですね。でも、女の子だから将来結婚して子育ての時期を迎えた時に、果たして仕事を続けていくことができるのか。いささか不安は残ります」と話してくれた。



見学会の前に科学技術館の「建設館」で、橋やトンネル、港湾といった社会資本の大切さを学んだ。「建設館」は建設業に対する興味、関心の醸成を目的に、日建連がプロデュースするオリジナルの学習展示コーナーだ。





# 土木

東京外環自動車道田尻工場の「チームなでしこ外環田尻」。(右から山形さん、倉本さん、石井さん、窪田さん、高橋さん)

## ものづくりの楽しさに 気づいてほしい

見学会後、けんせつ小町に仕事のやりがいや大変さを質問する中学生参加者。「ストレートな質問にドキッとしましたが、逆にもっとしっかりしなくては、と気が引き締まりました」と話す大滝麗理さん。



八月に入ると土木現場の見学会も開催された。千葉県市川市田尻地区で工事が進められている東京外環自動車道田尻工事。外環道本線（延長九九〇㍎）と、外環道と交差する京葉道路に接続する京葉ジャンクション（仮称）のランプ四本を建設している。一六名の女子と保護者を案内するのは「チームなでしこ外環田尻」（大成建設JV）に属するけんせつ小町たち。複雑な構造や工法よりも、広大な現場の「スケール感」を感じてもらいたいと、現場の全体像が体感できるポイントを選び、子供たちを誘導する。ある小町は「女の子たちは、今の状況を見ても、将来、高速道路ができるなんて想像もで

きないかもしれないけれど、いつか自分で運転できるようにになった時、この現場を思い出してくれるんじゃないかな」と期待を寄せていた。交流会では「未来の工事現場・高速道路」をテーマに絵を描いた。後日、拡大して仮囲いに貼り出されるという。クイズも出題された。「現場で使われる鉄筋をつなげるとどこまで届くでしょうか?」「お月さまあ!」「それは遠すぎ。ヒントは外国」「ほっかいどー!」「北海道は国内です」「インド!」「惜しい。答えはアメリカ」。そんなやり取りに会場が沸く。チームなでしこ外環田尻の高橋奈帆子リーダーは、建設業は男社会のイメージが先行し、建設業が女子の将来の選択肢にすら入らない現状に対して、次のように話す。

「看護師さんとか保育士さんは女性が多い職業という印象が定着していますよね。同じように建設業にも女性が活躍できる場がたくさんあるというイメージが大切なのではないかと。そのためにも私たちが現場で『普通』に働いているところを見てもらいたいです」。自身が明確に建設業界を志したのは大学進学直前のことだったという。その頃からモノを丸ごとつくる仕事に魅せられた。見学会に参加した女子は、その「気づき」を何年も先取りし、そして建設現場で「普通」に働く小町たちの姿を見たことに大きな影響を受けたはずだ。そう遠くない将来、彼女たちと「小町」が先輩、後輩としてどこかの現場で再会することもあるかもしれない。「期待が膨らみますね!」と高橋リーダーはその顔に満面の笑みを浮かべた。

## 交流し、注目を集め、 進化するけんせつ小町

田尻工事に限らず外環道の現場には各JVで数多くの小町たちが活躍しているため、注目を集めて

いる。これまでも、メディアで盛んに紹介されてきた。けんせつ小町が注目を集める事業でもあるのだ。今回の見学会を取り仕切る小町たちを見て、日建連の竹島克朗常務はこう語る。「小町たちは見学会を女の子たちが現場を知る絶好の契機としてくれました。彼女たち自身がその反応に直接触れる場ともなったはず。取材を含め、外側から注目される機会は、彼女たちにとっても大きな刺激であり、財産。その自覚が今後の建設業界における女性躍進の機運をより高めてくれることでしょう」。

## 私にもできる。それが、自信。



島田梨瑛さん



四宮 悠さん

# 現場で伝えることの意義

国交省

日建連

## 「現場での女性活躍」が特別なことではない 業界を目指したい



国土交通省  
土地・建設産業局  
建設課課長補佐  
**木村よし子**  
Yoshiko Kimura

史上初の女子小中学生を対象とした「なでしこ工事チーム」活躍中の現場見学会ということで、私も参加を心待ちにしていました。今回の見学会は、進路選択前の女子小中学生と保護者の方々双方に「建設業のダイナミックな魅力」や「女性も活躍できる建設業」を体感していただいたことに意義があると感じています。

私が参加させていただいた高層ビルの工事現場見学会には、猛暑のなか沢山の女の子と保護者の方がいらっやっていました。子供たちからの「この高さまでどうやってコンクリートを運ぶの?」「この壁から出ている鉄骨は何?」などの質問に的確に答えている女

性の姿が印象的でした(アトラクションかと思ふ仮設の巨大エレベーターに乗らせていただいで、子供たちからは感嘆の声!でした)。見学会終了後には「かっこよかった」という女の子の声に加え、「どんな勉強したら業界に入れるのか」など熱心な保護者の声も聞かれました。参加されたお子さんから未来の「けんせつ小町」が誕生するといいですね。

昨年8月に業界の皆様と「もっと女性が活躍できる行動計画」を策定してから1年が経ちました。日建連におかれても、業界を牽引する立場で意欲的な取組みを次々と実施していただき「5年以内に女性倍増」に向けた女性活躍の機運が着実に高まっています。一方で、業界や現場の声を聞くと、そもそもの女性志望者不足、ロールモデル不足や家庭との両立に向けた環境整備などまだまだ課題が多いと感じています。「現場での女性活躍が特別なことではない」真の女性活躍定着を目指し、今後とも、業界の皆さんと一体となって取り組んでいきたいと思っています。

## 「けんせつ小町」が持つ魅力を発信し続ける役割



日建連  
広報委員長  
**宮下正裕**  
Masahiro Miyashita

日建連はこれまで市民を対象とした現場見学会を実施してきましたが、女子小中学生とその保護者限定の現場見学会は初めての試みです。当初は参加者が集まるかどうか気掛かりだったものの、どの見学会でも大勢のご家族に参加いただきました。各現場は、工事の見学だけでなくそれぞれ趣向を凝らした体験型のイベン

トを企画し、参加者にとって夏休みの貴重な思い出になったと思います。また、見学会の様子がテレビ、新聞等で大きく報道されるなど、「けんせつ小町」の活躍をアピールすることができました。「けんせつ小町」が持つ魅力を発信し続けることが、広報委員会の役割です。引き続き積極的に取り組んでいきたいと思っています。

## 初めての取組みを恒常的な活動につなげる



日建連  
けんせつ小町委員長  
**則久芳行**  
Yoshiyuki Norihisa

日建連は長期ビジョンで今後10年間で90万人の技能者を新規に確保し、うち20万人は女性とする目標を掲げています。その実現のために当初は高校生、大学生を始め若年層を対象にPRすることを考えていましたが、今回大胆にも小中学生の女子に限定した見学会を開催することができました。各会場に多くの参加者が集っていただいたことに感謝し

ています。その率直な反応、寄せられた感想に大きな成果、手応えを感じています。子供たちも夏休みの絵日記や自由研究にその記憶を残してくれることでしょう。

女の子の夢に、現場で働く格好い女性が入る。そのためにも見学会は継続することに意義があります。今回の貴重な経験を今後の活動に活かしていきたいと思っています。

### TOPICS

#### なでしこ工事チームの登録数増加



技能労働者を確保すると同時に女性の活躍を後押しするため、会員各社になでしこ工事チームの設置を促している。2014年8月に登録第1号となった「チームなでしこ外環田尻」を筆頭に、現在48チームの登録がある(2015年7月31日現在)。

#### 現場環境整備マニュアルの策定



建設現場を女性たちが働きやすい環境にするための指針として「けんせつ小町」が働きやすい現場環境整備マニュアルを策定。マニュアルでは元請企業が実施する項目を、「MUST」と「BEST」に区分けし、現場に応じた具体的な改善策を明らかにしている。

#### リーフレットリニューアル

2015年1月に発行したリーフレット「もっと女性が活躍できる建設業を目指して」をリニューアル。「けんせつ小町」の認知度を高めることを目的に7,500部作成し各方面に配布してきたが、新たな取組みを加え、内容とデザインを一新した。



#### ピンバッジやシールを配布



「けんせつ小町」のさらなる普及・定着を図るために、ピンバッジやヘルメットに貼付するシールを作成し会員各社に配布した。